

留学報告書 ～私が経験した初のアメリカ～

パシフィック大学
外国語学部生（中期）

私はアメリカのオレゴン州にある、パシフィック大学に中期留学に行っていました。パシフィック大学のキャンパス内は野生のリスが生活していて、とても自然が溢れている環境でした。勉強する設備や24時間空いている図書館、スターバックス、コンビニなど、施設がとても充実しているため、勉強に最適の場所だったと言えます。大学での授業は月曜日から金曜日にかけて毎日あり、月、水、金は朝の9時から15時まで、お昼を含めて2コマあり、火、木は朝の10時から1時まで1コマの授業だったので、午後は課題や友達との時間に使う事ができました。先生方もとても優しく、文化の違いや考え方などに配慮してくださっていたので苦になるような授業は1つもありませんでした。クラスメイトは中国、サウジアラビアからの子が多く、みんなフレンドリーなので、仲良くグループワークなども行う事が出来ていたと思います。

私は4人で1つの寮で生活しており、1人部屋とキッチンがついていました。相部屋に比べてルームメイトとのコミュニケーションを取ることはあまりなかった為、私は共有ルームであるキッチンでよく時間をすごして工夫しました。初めの頃は容易に話しかける事が出来ませんでした。話す内容を作り積極的に話かけるなどし、努力したことを覚えています。シャワーとトイレを二人で一つを共有という形だったので初めの頃はどこに私の歯ブラシやタオル、シャンプーを置くのかを決めることも難しかったです。しかし、その甲斐あって、最後にはルームメイトととても仲良くさせてもらう事が出来たと思います。

私がアメリカ留学で最も思い出になったことはルームメイトとその家族と過ごした時間です。9月下旬頃からミカエラというルームメイトと仲良くなり、毎日学校が終わるとキッチンでお互いに勉強や課題をして、テレビを見ながらご飯を一緒に食べて、寝るまでのほとんどの時間を彼女と過ごしていました。私も彼女も自炊生活をしていたので、お互いにご飯を作り合うなどして毎日楽しく過ごしていました。ミカエラと打ち解け始め、毎週末には彼女の実家で過ごすようになりました。私にとって初めてアメリカの家庭に1人きりで行くことは留学生活の中で最も勇気のいる事だったと思います。ミカエラの妹、お母さん、お父さんはとても理解のある人で、私を自然と受け入れてくれました。サンクスギビングという大切な家族の日にも彼女たちは私を招待してくれて、アメリカのサンクスギビングの文化的な食べ物である、ターキー丸ごとやスタッフィング、グリーンズキャセロールなどを親戚全員が集まるって食べる習慣などを学ばせてくれました。クリスマスにはクリスマスツリーを作るためにモミの木ファームに行き、自分たち好みの木を選び、家の中に飾るといってとても文化的な体験もしました。人生初のイルミネーションの飾り付けや、拾っても拾っても降ってくる大量の枯葉集めなど、上げ始めたらきりが無いほどの新鮮な体験をミカエラの家族に経験させてもらったと思います。

留学生活において、沢山の驚きがありました。まずは、バイリンガルの多さです。パシフィック大学には留学生以外にも、日本人や日本語を勉強している子や、ハーフの子が沢山いました。日本語の授業を取っている子にどんな内容の授業なのか聞くと、私たちネイティブが聞いても上手く答えられないような難しい言葉の意味などを取り扱っており、驚いたことを覚えています。また、留学先で知り合った子が通っている教会に参加させてもらった際には国際結婚をした日本人女性の方々にお会いし、こんなにも国際結婚をしている人が多いことや、国際結婚をした女性たちの心の強さに驚きました。他にも驚くことは沢山あります。私は自炊をしていたので週に一回のペースでスーパーに通っていました。そこで最も驚いたことはうす切り肉や、小間切れ肉などが一切なく、売っている肉はすべてひき肉か大きな塊の肉でした。ひき肉に関しても驚くほどの油が出るので毎回キッチンペーパーで油を吸い取ってから調理していました。ある日、ミカエラのお父さんとお母さんと妹でスーパーに行った際に、私が「タン」が一番好きだという話をしました。その時、妹が私もタンを食べてみたいと言ってタンを買おうとしましたがそこに売られていたタンはタンそのものの大きな塊のタンでした。お母さんはどうやって調理したらいいかわからないと言って私に聞いてきましたが、さすがに私もそのままのタンを調理したことがなかったので断念しました。それほどアメリカにはちょうどいいお肉が一切売られていなかったです。お肉をはじめ、ケーキや冷凍エビなど量や大きさが何から何まで大きく一人暮らしには向いていないと感じました。文化的な面でわかっていても、なかなか出来なかったことは土足で基本的に生活するという事です。寮で生活している時は土足でもあまり抵抗なく、

日本のホテルのように過ごすことが出来ましたが、ルームメイトの実家で生活しているときは最初から最後までなれなかったです。慣れようとして、みんなと同じように靴で歩いていた床を靴下で歩き、寝転ぶこともしましたが、やはり生まれてからずっと家の中では靴を脱ぎ、靴は汚いという概念が付きまとっていたので私にとって文化の違いを最も感じる体験だったと言えます。

私たちの学校では積極的に日本語を学んでいる学生が多く、友達づくりの一環としてランゲージパートナーという活動を行っていました。ペアになった学生と日時を決め、毎週一回1時間程度、日本語と英語で会話するという内容でした。私が担当していた学生は日本語があまり得意ではなかったもので、私にとっては英語で会話することが多く良かったと思います。最後のお別れの際には私の好きな犬の絵をプレゼントしてくれました。パシフィック大学の日本語を勉強している学生は本当にみんなフレンドリーで私たちを見つけると話しかけてくれたり、遊びに誘ってくれたり、手作りのアイフォーンケースを作ってくれたりと積極的に交流しようとしてくれていました。

今回の中期アメリカ留学でたくさんのことを学び、一人で大きなことに挑戦する勇気、友達の大切さ、人の優しさ、文化の違いなど日本で暮らしているだけでは気づけなかったかもしれないことに気づき、短期間で大きく成長できたと感じます。そして、この恵まれた環境を提供してくれた学校や家族にもとても感謝しています。